

活 動 報 告 書

1 団体名	特定非営利活動法人 別府温泉地球博物館
2 活動内容	<p>学んで行って、市営温泉！ ～お年寄りから子どもまで… 地域の集会場で学ぶ、別府八湯アンバサダー温泉講座と市営温泉めぐり～</p>
3 活動期間	R6年 7月 4日から R7年 3月 17日まで
4 活動実施内容	<p>別府温泉地球博物館では、令和5年度より別府八湯アンバサダーという、座学+体験型の新温泉資格制度をスタートとしている。令和5年度は、受講者に30-50代と偏りがみられてしまい、若年層、老年層等より幅広い年齢層を対象とできる講座を行う必要があるという課題が生まれた。本事業では、下記【実施内容】の取り組みを行い、幅広い年齢層への温泉知識の学習体験の提供を行った。</p> <p>【実施内容】</p> <p>① 令和5年度に開発した別府八湯アンバサダーe-ラーニングの内容を元にした温泉講習会・出前授業を地域の集会場で実施した。（中心となる対象者：高齢者、中・高・大学生）</p> <p>② 毎年好評なせーので測ろう！の夏休み特別講座を実施した（中心となる対象者：小学校高学年）。</p> <p>また、上記の講習会・講座・授業の参加者に、指定した市営温泉うち8か所を体験してもらい、別府八湯アンバサダーに認定した。</p> <p><その他> 別府八湯アンバサダー認定者先着100名にオリジナルTシャツを配布した。</p>
5 活動の成果	<p>① 令和5年度に開発した別府八湯アンバサダーe-ラーニングの内容を元にした温泉講習会・出前授業を地域の集会場等で実施</p> <p>左記14か所で大人を中心とした温泉講習会を行い、<u>延べ307名もの参加があった</u>。また、市営温泉8か所をめぐり、別府八湯アンバサダーに認定された人数は<u>最終的に152人</u>だった（先着100名のTシャツは配布完了）。</p> <p>これら参加者に対して、本補事業の満足度等を評価するアンケートを行ったところ、55名の回答を得た。アンケートの結果による</p>

		日にち (2024)	出席者数
1	竹瓦温泉	9月7日	15
2	芝居の湯	9月8日	13
3	亀陽泉	9月15日	24
4	文化の湯	9月16日	20
5	不老泉	9月22日	26
6	浜臨温泉	9月23日	18
7	榎田温泉	10月2日	28
8	熱の湯	11月3日	30
9	海門寺温泉	10月19日	25
10	柴石温泉	11月13日	22
11	中央公民館	9月17日	10
12	末広温泉	11月4日	18
13	APU	10月25日	38
14	50cafe	12月5日	20
	合計		307

と、本補助事業では、19歳～69歳と幅広く参加者がおり（性別は男女1：1）、これら講座に対して9割に参加者が非常に面白かった、または面白かったと評価したことが分かった（5段階評価）。また、回答者のうち6割が市営温泉を8か所まわりスタンプラリーを達成できたという回答を行っており、どの温泉にもいかなかった人は2割だった。また普段市営温泉に行かないと回答した人（29名）のうち、8割が今回の企画を機に、市営温泉に大いに利用したい、また利用したいと感じたと回答している。

また、本補助事業では、南小学校、明星小学校にても温泉マイスターが講師となった小学生向けの出張講習会を行っており、それぞれ、38名（小学校3年生）、41名の参加があった。

② せーので測ろう！の夏休み特別講座を実施した（中心となる対象者：小学校高学年）。

本補助事業では、8月上旬に毎年別府市を共同して実施している「せーので測ろう！別府市全域温泉一斉調査」の小学生向けスピノフ企画を実施した。講師として、通常のせーので測ろう同様、龍谷大学山田教授、東海大学斉藤教授を招いた。19名（小学校5、6年生）の参加があり、堀田温泉の源泉の見学や泉質を理解するためのパックテストなどを体験してもらった。

【総括】

「幅広い年齢層に温泉知識を知ってもらい、別府の温泉を体験してもらおう」という目的が本補助事業では大いに達成できたと感じている。300人以上の参加は、今回の企画の想定（100名）を大きく上回る結果であり、多くの世代の人に温泉の基礎知識を伝えることができたと感じた。また、スタンプなどは番台さんの負担を考慮し、新規に制作をしないことを決めたこと、令和5年度に作成したe-ラーニング用の教材の改良をすすめ、講演用としても活用できたこと、スタンプ帳を小型化し、印刷代が当初の見積もりより低額になったことにより、多くの経費を削減して本事業を実施できた。

6 反省点や今後の目標

本補助事業の受講者の声として、今回の講座だけでは、誰かに伝えられるだけの十分な知識が身につかないという声があった。また、座学だけでなく、現場を見ながらの講習を受けたいという意見があった。これらの指摘については、令和5年度に実施した、ハイキング体験型の別府八湯アンバサダー企画を実施することで、解決できるのではないかと考えている。

また、本補助事業では、好きだったか（参考：1位柴石温泉、2位堀田温泉、3位竹瓦温泉）等のアンケート、また、市営温泉が抱える課題等のアンケートも同時に実施した。これらのアンケート結果は、別府市温泉課に共有を行った。今回の補助事業は、市営温泉モニター（※積極的にモニターに応募するような温泉好き）以外の方の意見を別府市に伝える機会となったのではないかと感じている。今後は令和5年度の内容も合併し、さらに温泉知識を多くの市民の方に伝えていきたいと考えている。また、令和5年度の課題となっていた、海外の方への温泉知識の伝搬方法については未解決の問題が多いため、これらの解決にも積極的に取り組んでいきたい。